

平成16年度第1回宇都宮市高等教育機関連絡協議会事務局長会議 会議録

- 1 開催日時 平成16年7月28日(水)
午前11時00分～正午
- 2 開催場所 宇都宮市役所教育委員室(13階)
- 3 出席者氏名 宇都宮大学 理事 吉田 和文
宇都宮文星短期大学 事務局長 齋藤 健次郎
文星芸術大学 “
作新学院大学女子短期大学部 事務局長 石崎 雄司
作新学院大学 “
帝京大学理工学部 事務局長 高橋 明夫
宇都宮市教育委員会 教育次長 福田 幹雄

4 公開・非公開の別 公開

5 傍聴者の数 0名

6 議事

(1) 報告事項

平成15年度事業報告について

平成15年度収支決算について

(2) 協議事項

平成16年度事業計画(案)について

平成16年度収支予算(案)について

7 発言の要旨

福田次長

会議次第に基づき議事を進めてまいります。まず、報告事項「平成15年度事業報告について」報告事項「平成15年度収支決算について」あわせて事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

福田次長

以上で説明が終わりました。ご意見・ご質問があればお願いします。
何かありませんか。ないようでしたら、平成15年度の事業報告および収支決算については、以上のようなことをご承認いただけるでしょうか。

全員

〔異議なし〕

福田次長

次に、協議事項「平成16年度事業計画(案)について」協議事項「平成16年度事業計画(案)について」あわせて事務局から説明をお願いします。

事務局

〔事務局説明〕

福田次長

以上で説明が終わりました。ご意見・ご質問があればお願いします。

石崎事務局長

次回の事務局長会議はいつ頃開催する予定なのか。

事務局

9月・10月頃に開催したいと考えております。

福田次長

他に何かありませんか。ないようでしたら、平成16年度の事業計画および収支予算については、以上のようなことをご承認いただけるでしょうか。

全員

〔異議なし〕

福田次長

それでは次に、会議次第の4「その他」に入ります。

会議冒頭のあいさつの中でお話させていただきましたとおり、現在、事務局では、この協議会の事業のあり方、会議の持ち方等について再検討しているところであります。

そこで、まず、事務局から、昨年からの検討状況についてご報告させていただいたのち、この件に関しまして、皆様からのご意見をお伺いしたいと思います。

〔事務局説明〕

福田次長

只今、事務局から説明がありましたとおり、皆様からのご意見を今後の検討の際の参考とさせていただきたいとありますが、本日は、初めてご出席の委員の方もいらっしゃるということで、高等教育機関連絡協議会の設置目的やこれまでの取組み等についても、事務局からご説明させていただきます。

事務局

〔事務局説明〕

福田次長

この協議会は、平成元年に設置されてから、既に15年程度経過しており、現在は、具体的方策を検討するというよりは、事業を実施する段階にあります。

また、事業の実態として、それぞれの大学が個別に取組んでおり、協議会の主な役割は、事業実施の際の全体調整になっているという点も踏まえたうえで、ご意見をいただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

齋藤事務局長

大学は、地域社会に対して深い関わりを持つ存在となっていく必要があり、特に生涯学習的なサービスというのは、大学の本来の責任の一つとなっていくものと認識している。文星芸術大学においては、地元宇都宮市の文化化を常に念頭に置いているが、芸術大学としての性格上、日光、益子、笠間や足利、結城などの伝統的な美術工芸、染織の町との研究や教育面での連携も考えている。

石崎事務局長

協議会事業の部分については、形式的なものでなく、実質的な生涯学習を考えるべきであり、本当に市民に役立つようなものを実施すべきであると思う。

そのためには、この協議会であれば、公開講座や国際交流など学習に関する市民のニーズや各大学の特性や特色を十分に調査し、双方の整合性を図るように努めれば、より良い生涯学習の展開が可能になると思う。

また、宇都宮市との連携の実態という部分に関しては、本学の先生や生徒と地元清原の方々との交流を通じて地域との連携を図っており、「離れた所から、もう一度市内を見直そう」という視点で進めているところである。

また、公の会議や行事等で本学の施設を利用する際は、規則に基づいて、積極的に貸している。

吉田理事

宇都宮市というよりは、栃木県の産業プラザを通じて、県下の産業界の方々との連携を図っており、主にコーディネーションを中心に行っている。

来年度予算の要求になるが、本学が得意分野としている「ベンチャービジネスラボラトリー」を産業にどのように近づけていくかというようなインキュベーション機能と産業界との連携という部分及び機器分析センターの三つを一緒にして、大学のシーズをニーズに近づけていく、或いは、産業界のニーズを取り込んでもう一段固めていくような取組みを考えており、門戸は開いていると考えている。

高橋事務局長

産業界等との研究・協力については、県の産業プラザやサテライトオフィスを中心として取組んでおり、宇都宮大学が主となって取組んでいる都

市エリア産学連携の事業にも参加し、協力体制を取っているところである。

また、施設開放の部分では、グラウンドや体育館を地元の中学校に貸したり、教室を国家試験や認定試験等の会場として、特別な条件を付けずに貸している。

事務局

お話を伺いましたところ、大学同士の連携や産業界等との協力という部分では、この連絡協議会というよりは、むしろ県レベルなどの広範囲なレベルで協力体制を取られているとのことでしたが、本市との連携という部分においても「この連絡協議会を窓口として」というよりは、各部局が、必要性に応じ、各大学に個々に協力を得ているものと認識しております。

また、この連絡協議会の事務局を生涯学習課が所管していることもあり

これまでの協議会事業は、生涯学習の分野に特化して実施されてきたことから、この協議会における生涯学習分野以外の事業の今後における取扱いに苦慮しているところであります。

いずれにしましても、この件につきましては、事務局で、再度、検討させていただいて、次回の事務局長会議の中で、ご報告させていただきたいと考えております。

福田次長

この件につきましては、今後、市の内部で検討いたしまして、次回の事務局長会議の中において素案をお示し、再度、皆様のご意見をいただきたいと考えております。

その他、ご意見、ご質問等ございませんか。

(.)

なければ、事務局から何かありますか。

事務局

本日、皆様からいただきましたご意見も参考とさせていただき、今後、庁内において協議・調整を進めさせていただきます。

また、この協議・調整が整いましたら、再度、事務局長会議を開催し、皆様にご報告させていただきたいと考えております。

なお、本日の協議内容については、それぞれ学長さんにご報告いただきますようお願い申し上げます。

福田次長

それでは、以上をもちまして、高等教育機関連絡協議会 事務局長会議を終了いたします。